

平成26年度 東洋学研究情報センター機関推進プロジェクト実施報告書

1. プロジェクト名

中華圏現代史貴重史料の収集・整理

2. 申請研究者

(氏名) (所属・役職)

松田 康博 東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター 教授

※主要な研究協力者

(氏名) (所属・役職)

清水 麗 東京大学東洋文化研究所 特任研究員

3. 研究期間

平成26年4月1日から平成27年3月31日(1年間)

4. プロジェクトの趣旨、全体計画

本プロジェクトは、「台湾現代史貴重史料の収集・整理」(機関推進プロジェクト平成22-24年度)および「中華圏現代史貴重史料の収集・整理」(機関推進プロジェクト平成25年度)の後継プロジェクトである。これらは、中華圏の貴重資料収集をプロジェクトとして予算化し、より系統的・機動的な収集と整理を行うものである。申請者はこれまでも台湾のみならず香港や中国大陸の貴重史料を収集してきたが、台北に加え、他地域の古書店の史料供給源を開拓し、散逸してしまう前に現代史に関する貴重史料を収集することが目的である。

5. 今年度の研究実施状況

科研費、個人研究費、会議参加(全額招待)による台湾、中国への出張機会などを利用して積極的に史料収集を進めた。所定の予算と部門基盤構築費を併せ、古書・档案・その他について、順次東文研図書室に納入している。東文研図書室に納入している貴重資料は、「現代台湾文庫」(平成25年度から公開。3月9日現在、1427件が登録済)および「現代中国文庫」(平成27年から公開。3月9日現在、20件が登録済)として公開されており、東文研のホームページでもその紹介を行っている。

6. 今年度の研究成果の概要

東洋文化研究所に所蔵されている「現代台湾文庫」の資料的価値と可能性についてセミナーを開催した。まず岩谷将(防衛省防衛研究所戦史研究センター主任研究官)報告では、すでに図書室で閲覧が可能となっている国民党、国防部、法務部調査局からの流出史料の一部や一般古書について紹介がなされた。中国・台湾の古い書籍については時間がたつほど手に入りにくくなる現状からみれば、今後さらに価値があがるものと考えられる。檔案資料に関する清水麗(東京大学東洋文化研究所特任研究員)報告で、400件を超える資料が整理され、2015年4月以降順次閲覧可能となるとの状況説明がなされた。それらは1950-70年代を中心に、国防、外交、宣伝指導などの文書、伝単、行政院や中国国民党、宣伝指導小組、宣伝指導委員会、国家安全会議等の会議資料や文書による意見交換、メモが含まれ、多くは機密扱いとされるものである。